

はじめに

この本を手にとってくださりありがとうございます！

私は今現在、48歳です。高校3年生の娘と、中学2年生の息子を持つ、パートタイムで働く主婦です。そんな私がなぜ本を書こうと思ったかというと、それは子どもころからの夢だったからです。そして、ここに到達するまでに、たくさんのご縁に巡り会えたからです。

この本が形となって誕生するころ、私は50歳になっていると思います。

「50歳までにやりたいことは全部やったほうがいい」私の人生を変えてくれた、個性心理学創始者、弦本将裕先生からそう言われたとき、素直に「やろう！ やるしかない！」と思ったのです。そのとき私は45歳でした。

それまでの私は、すべてにおいて自信がない人生を送っていました。親のこともお

金のことも、自分自身のこともすべてです。何のために生まれてきたのだろう、答えが見つからないまま、ただなんとなく生きてきました。

私は広島県の呉という瀬戸内海が見える港町で育ちました。

父と母と妹の四人暮らしで、父は海上自衛隊員、母は当時としては珍しくパートで仕事を転々としていました。自衛隊員の父は出航に出ていることが多く、ほとんど家にはいませんでした。

自衛隊の制服を着て、船の鉄とペンキの匂いをさせて帰ってくる父を「知らない怖いおじさん」と、私は思っていました。家にいるときの父は、パチンコに麻雀に明け暮れて、一緒に遊んでもらった記憶はありません。

そんな父と母の喧嘩は絶えることがありませんでした。幼稚園児だった私は、毎晩布団の中でビクビク震えながら喧嘩がおさまるのを待っていました。どうやったらお父さんとお母さんは喧嘩しないのだろう、どうすれば機嫌がよくなるのだろう。私が

生まれてこなければ、喧嘩をしなくてもすんだのかもしれない。そんなことも考えていました。

私の人格形成はこの時期がとて大きかったのではないかと思っています。

子どもは親を、特に母親を選んで生まれてきます。そして「つ」のつく年齢、9つまでは親の影響をそのまま受けてしまうのです。私は両親のことがずっとコンプレックスでした。ですがこの両親でなければ、今の私は存在しないのです。私の魂を磨くために、自分自身で両親を選んで生まれてきたのです。すべては私が経験したい出来事だったのです。

「生まれてくる」ということはとても尊いことです。

私たちは生まれてきただけで、倅せなのです。人は何のために生まれてきたかという、「倅せを感じきるため」に生まれてきたのです。ひとりひとり、今回の人生で経験したいこと、クリアしていく課題が違うのです。その秘密が「生年月日」からわ

かるのです。

神様はベストなタイミングで「個性心理学」に出会わせてくれました。生まれてきた本当の理由を知ること、わたしは生まれ変わったのです。本来の自分に戻れたのです。

「自分には何もない」と思っていた私が、出会いでどんどん運命を変えていき、「自分のことが大好き」になりました。人は必ず変われるのだということを、この本でお伝えしたいと思います。

西田緑